

まわり踊り復活

吉野川市美郷地区の地域おこし団体・美郷宝さがし探検隊は、11、12日に開く「高開の石積みライトアップ」で、市指定無形文化財の「まわり踊

美郷地区
住民団体

り」を復活させる。旧美郷村の夏祭りなどで盛んに行われていた踊りだが、過疎高齢化で踊り手が減り、合併後の3年間は途絶えたままになっていた。

11・12日 高開ライトアップで

「良い伝統受け継ぐ」



まわり踊りは死者や先祖を供養する伝統の踊りで、六―八月、地区内に点在する地蔵堂や薬師堂の前で行われていた。「年はもゆかぬ巡礼を」と、美声を発する音頭出しを中心に、踊り手が円形に並び手をたいて踊る形式で、長く村民に親しまれていた。旧村の過疎化が進んでからも、地域によっては保存会ができたり、村民体育祭で披露したりと、伝統の継承に努めていたが、踊りに不可欠な音頭出しが高齢化。本格的にできるのは四、五人ほどになっていた。

旧美郷村で行われていたまわり踊り。吉野川市美郷（美郷はたる館提供、撮影年不明）

「このまま途絶えてしまつのは忍びない。古き

良き伝統は受け継いでいこう」と、棟本誠二隊長（五三）同市美郷張、福祉施設職員ららが、かつての音頭出しに声を掛けて回った。本番では音頭出し二人を中心に踊る。

まで、同市美郷大神の高開の石積みで開く。現地（五三）同市美郷張、福祉施設職員らに、美郷はたる館に同六時に集合し、歩いて現地向かう。問い合わせは同館（電話0883（43）2888）。